

宮城県仙台市内の解体工事現場でのアスベスト飛散事案に係る
厚生労働省の対応（報告）

1. 背景等

宮城県仙台市内で、アスベスト建材を使用したビルの解体作業において、敷地境界で1リットル当たり10本を大幅に超えるアスベストが検出されたとして、仙台市が11月30日に発表を行ったもの。

2. 厚生労働省の対応

仙台市が気中濃度測定を行ったところ、敷地境界で1リットル当たり10本を大幅に超えるアスベストが検出された。この情報を受けた仙台労働基準監督署が臨検監督を行い、11月29日に作業停止命令を発した。

現在は、気中のアスベスト濃度は通常時の水準に戻っているが、引き続き仙台市と連携して飛散の原因等について調査を進めており、アスベスト除去作業の再開は、作業空間の隔離措置等が適切に行われていることを確認した後となる。

3. 厚生労働省による気中濃度測定

厚生労働省においても仙台市の測定と並行して同現場（作業現場内中心）で気中濃度測定を行ったもの。その結果は下表の通り。

（資料採取日：11月25日、数値確認日：12月3日）

調査地点分類	測定箇所名称	位相差/偏光顕微鏡 または 位相差顕微鏡				電子顕微鏡		
		総繊維数濃度 (f/L)	石綿繊維数の割合	石綿繊維数濃度 (f/L)	測定方法	総繊維数濃度 (f/L)	石綿繊維 (アモサイト) 数の割合	アモサイト繊維数濃度 (f/L)
建築物の解体作業場	作業現場西側(屋外)	5.94	40%	2.37	位相差/偏光	7.0	100%	7.0
	排気口付近	195.63	—	—	位相差	126.0	67%	84.0
	前室付近	1308.08	—	—	位相差	1204.3	60%	721.2
	隔離内	定量不能	—	—	位相差	定量不能	—	石綿を検出